

## 2 小麦

### (1) 国際的な小麦需給の概要

#### ○2009/10年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、世界的に増産となった前年度より収穫面積が減少することなどから、世界的な生産量の減少が見込まれている。

需要面では、堅調な食料用需要の増加が、飼料用需要の減少を上回り、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、2年連続して生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も増加し、世界の小麦需給は緩和すると見込まれる。

#### 【生産量】

生産量は、豊作であった前年度と比較して、市場価格の低下や経済の減退による影響から収穫面積が減少すること等から、オーストラリア、中国では増産となるものの、EU、米国、ロシア等で減産となり、世界全体では前年度より26.1百万トン減少（▲3.8%）し、656.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では、1.6百万トン下方修正されており、国別には、EU、カナダ、米国で下方修正、ロシア、中国で上方修正された。

#### 【消費量】

消費量は、食料用需要を中心にインド、ロシア等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より8.0百万トン増加（1.3%）し、641.8百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では1.0百万トン下方修正されており、国別には、ロシア、米国で下方修正された。

#### 【貿易量】

世界全体の貿易量は、9.1百万トン減少（▲6.8%）し、123.2百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではオーストラリアやアルゼンチン等で増加するものの、ウクライナ、EU、米国等で輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、インドネシアで輸入量の増加、モロッコ、ブラジル等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.5百万トン下方修正されており、国別には、ロシアで上方修正、ウクライナで下方修正された。

#### 【期末在庫量】

期末在庫量は、2年連続で生産量が消費量を上回ることから、中国、インド等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より14.3百万トン増加（8.5%）し、182.7百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も28.5%と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で、0.8百万トン上方修正されており、国別には、ロシア、米国、中国で上方修正、EU、カナダで下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>609.7</b>	<b>682.2</b>	<b>656.1</b>	<b>▲1.6</b>	<b>▲3.8</b>
EU-27	120.2	151.6	136.0	▲2.3	▲10.3
中国	109.3	112.5	113.5	0.5	0.9
インド	75.8	78.6	77.5	-	▲1.4
ロシア	49.4	63.7	59.0	1.0	▲7.4
米国	55.8	68.0	54.9	▲0.3	▲19.4
カナダ	20.1	28.6	25.0	▲1.0	▲12.6
オーストラリア	13.8	21.5	23.0	-	7.0
<b>消費量</b>	<b>616.7</b>	<b>633.8</b>	<b>641.8</b>	<b>▲1.0</b>	<b>1.3</b>
うち飼料用	96.2	114.1	111.4	▲0.1	▲2.4
EU-27	116.5	127.5	127.5	-	0.0
中国	106.0	102.5	101.0	-	▲1.5
インド	76.3	70.3	72.5	-	3.1
ロシア	37.7	38.7	40.0	▲0.5	3.4
米国	28.6	34.0	34.1	▲0.5	0.2
パキスタン	22.4	22.8	23.3	-	2.2
トルコ	16.8	16.9	17.0	-	0.6
<b>貿易量</b>	<b>117.5</b>	<b>132.3</b>	<b>123.2</b>	<b>▲0.5</b>	<b>▲6.8</b>
(輸出)					
米国	34.4	27.5	24.5	-	▲10.9
EU-27	12.3	22.5	18.0	-	▲20.0
カナダ	16.4	16.8	17.5	-	4.2
ロシア	12.6	18.0	18.0	0.5	0.0
オーストラリア	7.5	14.0	15.5	-	10.7
ウクライナ	1.2	12.5	5.0	▲1.0	▲60.0
アルゼンチン	11.2	4.5	5.5	-	22.2
(輸入)					
エジプト	7.7	9.5	8.5	-	▲10.5
EU-27	6.9	6.5	6.5	-	0.0
ブラジル	6.7	6.0	5.7	-	▲5.0
インドネシア	5.5	5.3	5.5	-	3.8
日本	5.7	5.5	5.5	-	0.0
アルジェリア	5.9	5.6	5.4	-	▲3.6
モロッコ	4.2	3.5	1.8	-	▲48.6
<b>期末在庫量</b>	<b>120.0</b>	<b>168.4</b>	<b>182.7</b>	<b>0.8</b>	<b>8.5</b>
中国	39.0	48.4	59.7	0.1	23.3
EU-27	12.4	20.5	17.4	▲2.8	▲14.8
米国	8.3	18.2	17.6	0.3	▲3.3
インド	5.8	13.9	16.9	-	21.6
ロシア	1.8	9.0	10.3	2.5	14.5
カナダ	4.6	7.5	6.5	▲1.0	▲13.3
オーストラリア	4.7	5.5	6.0	-	9.6
<b>期末在庫率</b>	<b>19.5%</b>	<b>26.6%</b>	<b>28.5%</b>	<b>0.2</b>	<b>1.9</b>

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より収穫面積、単収とも減少するため、13.1百万トン減少（▲19.4%）し、54.9百万トンとなる見込みである。

消費量は、食料用需要の増加が飼料用需要の減少を上回ると見込まれることから前年度より0.1百万トン増加（0.2%）し、34.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少等から3.0百万トン減少（▲10.9%）し、24.5百万トンとなる見込みである。

この結果、前年度大幅に増加した期末在庫量は、0.6百万トン減少（▲3.3%）減少し、17.6百万トンとなり、期末在庫率は30.1%（0.5ポイント増）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、冬小麦の単収の下方修正から、生産量が0.3百万トン下方修正され、低品質小麦の価格の上昇の予測による飼料用需要の減少から消費量が0.5百万トン下方修正されたことから、期末在庫量は0.3百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦の作柄は、優良～普通までの合計では72%と前年度の最終の76%を4ポイント下回っている。オクラホマ州、テキサス州等で生育期の1月から3月の干ばつの影響から、冬小麦の作柄に影響が出ている。

また、収穫面積は、2008/09年度の16.0百万ヘクタールより2.2百万ヘクタール減少（▲14%）し、13.8百万ヘクタールとなっている。

冬小麦の産地では収穫が開始されている。収穫の進捗率は平均で20%と平年（過去5年の平均）より11ポイント、前年より2ポイント遅れている。

2009/10年度の春小麦については、雨がちな天候からノースダコタ州等で作付けが遅れたことから、6月21日現在でおおむね発芽を終えたが、前年度より1週間から2週間程度遅れている。生育期の天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース63.3%）  
世界の生産量シェア 5位（2009/10年度 8.4%）  
輸出量シェア 1位（2009/10年度 19.9%）

表－2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.8	68.0	54.9	▲0.3	▲19.4
消費量	28.6	34.0	34.1	▲0.5	0.2
うち飼料用	0.4	6.8	6.0	▲0.5	▲11.9
輸出量	34.4	27.5	24.5	-	▲10.9
輸入量	3.1	3.4	3.1	-	▲7.9
期末在庫量	8.3	18.2	17.6	0.3	▲3.3
期末在庫率	13.2%	29.6%	30.1%	0.7	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	20.64	22.54	19.79	-	▲12.2
単収(t/ha)	2.70	3.02	2.77	▲0.02	▲8.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain : World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の生育進捗及び作柄（6月21日現在）

〔生育進捗状況（2009/10年度冬小麦、2009/10年度春小麦）

冬小麦(主要18州)

出穂率 95%（平年差：▲2 p、前年差：+2 p）

収穫率 20%（平年差：▲11 p、前年差：▲2 P）

春小麦(主要6州)

発芽率 99%（平年差：▲1 p、前年差：▲1 p）

〔作柄（2009/10年度冬小麦：主要18州）（2009/10年度春小麦：主要6州）〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2009/10	9	36	27	16	12
	前年度同時期	10	36	30	14	10
	前年度最終	10	36	30	14	10
春小麦	2009/10	11	66	19	4	0
	前年度同時期	12	60	23	4	1
	前年度最終	14	41	28	12	5

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA 「Crop Progress」

## イ カナダ

### 【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積は前年並みであるが、豊作であった前年度と比べて産地の乾燥等により単収が減少することから、3.6百万トン減少（▲12.6%）し、25.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少から前年度より0.4百万トン減少（▲4.2%）し、8.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.7百万トン増加（4.2%）し、17.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が減少するため、前年度より1.0百万トン減少（▲13.3%）し、6.5百万トンとなり、期末在庫率は、24.8%（4.1ポイント減）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、単収の下方修正による生産量が1.0百万トン下方修正されたことにより、期末在庫量は1.0百万トン下方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の作付けは、平年よりおおよそ10日から2週間遅れでおおむね終了した。主産地であるサスカチュワン州やアルバータ州の一部での土壌水分の不足やマニトバ州の水分過多の影響が懸念されている。今後の生育期の天候に注視が必要である。

## ウ オーストラリア

### 【需給状況】

オーストラリアの生産量は、前年度に引き続いて増産となり、1.5百万トン増加（7.0%）し、23.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加等から前年度より0.3百万トン増加（3.7%）し、7.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加から1.5百万トン増加（10.7%）し、15.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン増加（9.7%）し、6.0百万トンと積み増しされ、期末在庫率は26.6%（0.3ポイント増）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の作付については、6月にはおおむね終了したが、西オーストラリア州の一部の地域等で降雨が少ないため、播種前の作付けとなった。今後の生育期の天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2008年数量ベース20.4%)  
世界の生産量シェア 6位 (2009/10年度 3.8%)  
輸出量シェア 4位 (2009/10年度 14.2%)

表-3 カナダの小麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.1	28.6	25.0 (25.9)	▲ 1.0	▲ 12.6
消費量	6.4	9.2	8.8 (8.7)	-	▲ 4.2
うち飼料用	2.1	4.4	3.9 (3.9)	-	▲ 11.4
輸出量	16.4	16.8	17.5 (17.5)	-	4.2
輸入量	0.4	0.4	0.3 (0.0)	-	▲ 14.3
期末在庫量	4.6	7.5	6.5 (6.4)	▲ 1.0	▲ 13.3
期末在庫率	20.0%	29.0%	24.8% (24.4%)	▲ 3.8	▲ 4.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.64	10.03	10.00 (9.97)	-	▲ 0.3
単収(t/ha)	2.32	2.85	2.50 (2.60)	▲ 0.10	▲ 12.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (April 30, 2009)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2008年数量ベース16.1%)  
世界の生産量シェア 8位 (2009/10年度 3.5%)  
輸出量シェア 5位 (2009/10年度 12.6%)

表-4 オーストラリアの小麦需給（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.8	21.5	23.0 (22.0)	-	7.0
消費量	6.2	6.8	7.1 (6.9)	-	3.7
うち飼料用	3.5	3.8	4.0 (3.8)	-	6.7
輸出量	7.5	14.0	15.5 (15.2)	-	10.7
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	0.0
期末在庫量	4.7	5.5	6.0 (…)	-	9.7
期末在庫率	34.2%	26.3%	26.6% (…)	-	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.70	13.50	13.00 (13.51)	-	▲ 3.7
単収(t/ha)	1.09	1.59	1.77 (1.63)	-	11.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (June 2009)」 (※ABAREは作付面積)

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、過去最高の生産量であった前年度と比較して、東欧やスペインの乾燥により、単収が低下することや、油糧種子への転換等から収穫面積が減少すると見られ、前年度より15.6百万トン減少（▲10.3%）し、136.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並みの127.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少等から4.5百万トン減少（▲20.0%）し、18.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は3.1百万トン減少（▲14.8%）し、17.4百万トンとなり、期末在庫率も12.0%（1.7ポイント減）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の輸出量が0.5百万トン上方修正されことにより、2009/10年度の期首在庫が下方修正された。また、2009/10年度の単収が下方修正されたこと等により生産量が2.3百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は2.8百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦に関し、4月から5月の生育期に東欧やスペイン等で乾燥した天候となった。今後の収穫期の天候に注視する必要がある。

【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

オ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、単収が前年度並で、収穫面積が増加することから、前年度より1.0百万トン増加(0.9%)し、113.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少等から前年度より1.5百万トン減少（▲1.5%）し、101.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.7百万トン増加（100.0%）し、1.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は11.3百万トン増加（23.3%）し59.7百万トンとなり、期末在庫率も58.3%（11.4ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の前年度生産量が0.5百万トン下方修正された。また、2009/10年度の期首在庫が下方修正されたことと、2009/10年度の前年度生産量が0.5百万トン上方修正、輸入量が0.1百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量は、0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦については、干ばつが発生していたものの、2月以降の降雨により改善された。収穫については、降雨により一部で発芽が発生したが、6月中旬現在、9割程度終了した。

【貿易情報】

2007年12月に輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課しているが、輸出税については2009年7月1日に撤廃される予定である。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

世界の生産量シェア1位（2009/10年度 20.7%）  
輸出量シェア2位（2009/10年度 14.6%）

表-5 EU-27の小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(IGC)		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.2	151.6	136.0	(137.4)	▲ 2.3	▲ 10.3
消費量	116.5	127.5	127.5	(125.2)	-	0.0
うち飼料用	52.4	61.0	60.0	(53.0)	-	▲ 1.6
輸出量	12.3	22.5	18.0	(18.2)	-	▲ 20.0
輸入量	6.9	6.5	6.5	(5.3)	-	0.0
期末在庫量	12.4	20.5	17.4	(15.5)	▲ 2.8	▲ 14.8
期末在庫率	9.6%	13.7%	12.0%	(0.1)	▲ 1.9	▲ 1.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.78	26.94	25.86	(25.70)	0.04	▲ 4.0
単収(t/ha)	4.85	5.63	5.26	(5.35)	▲ 0.10	▲ 6.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (29 May 2009)」

（世界の生産量シェア2位（2009/10年度 17.3%））

表-6 中国の小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(IGC)		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.3	112.5	113.5	(108.0)	0.5	0.9
消費量	106.0	102.5	101.0	(…)	-	▲ 1.5
うち飼料用	8.0	5.0	4.0	(…)	-	▲ 20.0
輸出量	2.8	0.8	1.5	(0.2)	-	100.0
輸入量	0.1	0.2	0.3	(0.2)	0.1	50.0
期末在庫量	39.0	48.4	59.7	(…)	0.1	23.3
期末在庫率	35.8%	46.9%	58.3%	(…)	0.1	11.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.72	24.00	24.20	(…)	0.10	0.8
単収(t/ha)	4.61	4.69	4.69	(…)	-	0.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (29 May 2009)」

## カ インド

### 【需給状況】

インドの生産量は、過去最大の生産量であった前年度より1.1百万トン減少（▲1.4%）し、77.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より2.2百万トン増加（3.1%）し、72.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.8百万トン増加（900.0%）し、2.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は前年度と同じ0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、3.0百万トン増加（21.6%）し、16.9百万トンとなり、期末在庫率も22.7%（3.0ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の収穫は終了した。

### 【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されており現在も継続している。なお、2008年9月に種子用の小麦に限り輸出禁止が解除された。

## キ ロシア

### 【需給状況】

ロシアの生産量は、豊作であった前年度と比較して収穫面積は増加するものの単収が減少することから、前年度より4.7百万トン減少（▲7.4%）し、59.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.3百万トン増加（3.4%）し、4.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並みの18.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.3百万トン増加（14.5%）し、10.3百万トンとなり、期末在庫率も17.7%（1.9ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の消費量が2.5百万トン下方修正、輸出量が1.0百万トン上方修正されたことにより、2009/10年度の期首在庫が1.5百万トン上方修正された。また、2009/10年度の生産量が生育に適した天候であったこと等から1.0百万トン上方修正されたこと、養豚・養鶏の振興政策により飼料用需要が1.0百万トン上方修正された一方、食料用需要が1.5百万トン下方修正されたこと、輸出需要が旺盛なことから輸出量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量は2.5百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦は、収穫面積は減少したが、一部の冬枯れを除いて、作柄は良好な見通しである。2009/10年度の春小麦は、作付けはおおむめ終了した。これから冬小麦は収穫期、春小麦は生育期を迎えることから、天候に注視する必要がある。

### 【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

## （世界の生産量シェア3位（2009/10年度 11.8%））

表-7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	75.8	78.6	77.5 (77.6)	-	▲ 1.4
消費量	76.4	70.3	72.5 (…)	-	3.1
うち飼料用	0.2	0.1	0.1 (…)	-	0.0
輸出量	0.1	0.2	2.0 (2.0)	-	900.0
輸入量	1.9	0.0	0.0 (T)	-	▲ 100.0
期末在庫量	5.8	13.9	16.9 (…)	-	21.6
期末在庫率	7.6%	19.7%	22.7% (…)	-	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.00	28.15	27.80 (…)	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	2.71	2.79	2.79 (…)	-	0.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
IGC 「Grain Market Report (29 May 2009)」

## （世界の生産量シェア4位（2009/10年度 9.0%） 輸出量シェア2位（2009/10年度 14.6%））

表-8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.4	63.7	59.0 (55.0)	1.0	▲ 7.4
消費量	37.7	38.7	40.0 (39.1)	▲ 0.5	3.4
うち飼料用	15.1	16.0	17.0 (13.9)	1.0	6.3
輸出量	12.6	18.0	18.0 (15.5)	0.5	0.0
輸入量	0.4	0.2	0.3 (0.2)	-	100.0
期末在庫量	1.8	9.0	10.3 (9.5)	2.5	14.5
期末在庫率	3.6%	15.8%	17.7% (17.4%)	4.3	1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.50	26.70	27.40 (…)	0.20	2.6
単収(t/ha)	2.02	2.39	2.15 (…)	0.02	▲ 10.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
IGC 「Grain Market Report (29 May 2009)」

## ク アルゼンチン

### 【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、収穫面積は減少するものの、現時点で単収が平年並に回復すると予測から前年度より2.6百万トン増加（31.0%）し、11.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（2.0%）し、5.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから1.0百万トン増加（22.2%）し、5.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.3百万トン増加（82.1%）し0.7百万トンとなり、期末在庫率も6.6%（2.6ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の作付については、主要産地での激しい干ばつにより播種が遅れており、6月中旬現在、25%程度の進展にとどまっている。今後の天候に注視する必要がある。

### 【貿易情報】

輸出登録手続きは2008年9月中旬から、干ばつによる生産減少の影響を見極めるため停止しており、手続きの再開時期は未定である。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、3月には大豆の輸出税引き下げを求めて穀物の売却を拒否するストライキを行った。

## ケ ウクライナ

### 【需給状況】

ウクライナの実産量は、豊作であった前年度と比較して、4月の乾燥により単収が低下し、収穫面積が減少すること等から、前年度より7.9百万トン減少（▲30.5%）し、18.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より主に飼料用需要の減少から1.0百万トン減少（▲7.2%）し、12.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから7.5百万トン減少（▲60.0%）し、5.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.3百万トン増加（25.6%）し1.5百万トンとなり、期末在庫率は8.3%（3.9ポイント増）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の消費量が0.2百万トン下方修正、輸出量が0.5百万トン上方修正されたことにより2009/10年度の期首在庫が0.3百万トン下方修正された。また、2009/10年度の実産量が単収の下方修正から1.0百万トン下方修正、消費量が飼料用需要の下方修正により0.6百万トン下方修正、輸出量が生産量の減少から1.0百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は0.3百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦は、5月の乾燥した気候により影響を受け、生産量が減少すると見込まれている。

2009/10年度の春小麦については、作付は4月に終了したが、5月後半以降の乾燥により生産量が減少する見込みである。今後の収穫期の天候に注視する必要がある。

### 【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

## (世界の輸出量シェア7位 (2009/10年度 4.5%))

表-9 アルゼンチン的小麦需給 (市場年度: 12月~翌年11月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	16.8	8.4	11.0 (11.0)	-	31.0
消費量	5.1	5.1	5.2 (5.1)	-	2.0
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸出量	11.2	4.5	5.5 (5.9)	-	22.2
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...
期末在庫量	1.5	0.4	0.7 (0.4)	-	82.1
期末在庫率	9.4%	4.1%	6.6% (3.6%)	-	2.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.76	4.20	4.00 (3.90)	-	▲ 4.8
単収(t/ha)	2.92	2.00	2.75 (2.82)	-	37.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (29 May 2009)」

## (世界の輸出量シェア8位 (2008/09年度 4.1%))

表-10 ウクライナ的小麦需給 (市場年度: 7月~翌年6月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.9	25.9	18.0 (19.0)	▲ 1.0	▲ 30.5
消費量	12.9	13.8	12.8 (12.4)	▲ 0.6	▲ 7.2
うち飼料用	3.1	3.8	3.0 (2.7)	▲ 0.6	▲ 21.1
輸出量	1.2	12.5	5.0 (6.0)	▲ 1.0	▲ 60.0
輸入量	0.3	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
期末在庫量	1.5	1.2	1.5 (3.0)	0.3	25.6
期末在庫率	10.4%	4.4%	8.3% (16.1%)	2.2	3.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.95	7.05	6.60 (…)	-	▲ 6.4
単収(t/ha)	2.34	3.67	2.73 (…)	▲ 0.15	▲ 25.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (29 May 2009)」